

と思われる。ちなみに浅草寺は坂東札所第一三番目である。

(2)も奉納札であり、縦に半截され左半分は欠損している。(3)は上部を圭頭状にした木札である。(4)は方形の木札であり、中央に穿孔が見られる。裏面は縁に墨が塗られている。

(5)は板塔婆に転用された板材で、両面に墨書が見られるが、裏面とした四行分はかなり薄く、表の一文字分(?)が転用後の墨書と推定される。当初の用途は不明であるが、四行分の墨書がある面が本来の表側と思われる。

9 関係文献

台東区教育委員会『台東区の遺跡』(一九九五年)

小俣悟「台東区の遺跡—概要と最近の調査について」『武藏野』
七四一二(一九九五年)
(小俣 悟)

紫香楽宮跡調査委員会編 信楽町教育委員会発行

『宮町遺跡出土木簡概報』一 の刊行

「皇后宮職」「金光明寺」と書かれた木簡や、参河・遠江・駿河・伊豆・近江・越前などの諸国の荷札木簡が出土し、紫香楽宮跡であることが確実になつた滋賀県信楽町宮町遺跡出土の木簡の概報が刊行された。今回は宮町遺跡で初めて木簡が出土した一九八六年度の第四次調査から、一九九七年度の第二二次調査出土分までを収録する。既に『木簡研究』などで報告済みの木簡についても、今回再度釈読を行い、最新の成果を収録する。今後も続刊の予定。

A4版 三二頁 写真図版三葉 一九九九年一二月刊行
頒価一〇〇〇円(送料込み)

問い合わせ先

信楽町教育委員会宮町遺跡調査事務所 鈴木良章氏
電話 ○七四八一八三一一九一九(FAX兼用)